546 ****Tc-MDP骨SPECTによる育椎骨集積分布パターンの解析

小須田茂、和田陽市、横山久朗、片山通章、草野正一 (防衛医大 放)

***Tc-NDP による骨シンチグラフィPlanar像にて、脊椎骨転移と変形性脊椎症との鑑別が困難であった20例を対象に、脊椎の骨SPECTを施行した。 装置は三検出器型東芝SPECT装置9300Aを用い、transaxial、sagittal、coronal像を得た。 脊椎骨集積分布パターンと単純X線像、MRI、CT、臨床経過と対比検討した。

その結果、SPECT像集積分布パターンは、 Planar像の それと必ずしも一致せず、SPECTにて、 びまん性集積パ ターン、不整、不均一集積パターンは転移を示唆したが、 椎体内限局性集積パターンは転移と変形性脊椎症との鑑 別が困難と思われた。

547 頸椎病巣検出における骨 SPECT の有用性

油井信春、戸川貴史、木下富士美、柳沢正道(千葉がん 核医)、秋山芳久(同物理)

骨シンチグラフィにおいて、頸部は背面像で距離が離れるため鮮明な像が得られにくい。また前面像ではしばしば不明の集積昂進が見られ、骨そのものの異常か否かが判定できない場合がある。頸椎の異常検出の向上のために、我々は骨シンチグラフィに SPECT を応用し、planar像では得られない病巣を検出できることを確かめた。また頸部前面の集積が骨外集積によるものであることも確認した。骨外集積の原因は甲状軟骨、気管軟骨による可能性が極めて高く、またこれらの集積は加齢と共に頻度がました。

548 **肺性肥大性骨関節症の骨シンチグラム所見**小野 慈、奥村 貴聰(神奈川がんセ・核)杉山 正人 (横浜市大・医・放)

骨シンチは肺性肥大性骨関節症(HPO)の早期診断、 経過観察に有用性が高いと評価されているが、多数例を まとめた報告は少ない。1986年 1月から91年12月までに 検査した骨シンチ9148件のうち HPOの所見を示した11例 33回について骨シンチ所見と臨床所見を検討した。男 9 女 2,年齢40~76才平均56.8才、肺癌10例(sq 3,ad 3 p/dad 2, anapl 2)乳癌胸膜転移 1例。 骨シンチ 異常所見の強い部位は脛骨(11例中11例) 大腿骨(9例) 上腕骨(7)足(7)に多く前腕(5)膝蓋骨(5)鎖骨(3) 肩甲骨(3)手(3)にも認められた。骨シンチ所見の変化 は悪化 3例、改善4例、悪化と改善は 1例にみられた。 異常所見の変動は最短 2ヶ月でも観察されるから HPOの 骨シンチによる追跡は 3ヶ月以内が至適と思われた。 549 掌蹠膿疱症における骨シンチグラフィの検討 坂田博道、岡崎正敏(福岡大 放)

掌蹠膿疱症 (PPP と略す) に伴う骨・関節病変を骨シンチにて検討した。対象は皮膚科にて PPPと診断された55例 (男20名,女35名) で年齢は34才~83才 (平均50.5才) であった。方法は88mTc-MDP (または88mTc-HMDP) 740MBq静注 2~5 時間後に全身前後像およびスポット像を撮像した。骨イメージの評価は正常対照群 100例の結果をもとに視覚的に判定した。

PPP 55例中42例 (76%) に骨シンチ上異常集積が認められた。部位別では胸肋関節が39例と最も多く、次いで胸鎖関節27例,胸骨柄体関節11例であった。また腰椎,仙腸関節,頸椎,大腿骨などの胸郭外にも病変を認めた。骨シンチは PPPの骨・関節病変の早期検出ならびに経過観察に有用であった。

550 MRI 及び SPECT による膝滑膜炎の診断 白川正樹、大森薫雄、勝又壮一、奥井光敏、三井健二、 北村 淳、稲葉 裕、本島哲平、森 雅宏 (県立厚木 病院 整形)

近年、MRI及びSPECTは関節疾患の診断に欠かせない検査になって来た。今回は膝関節炎の滑膜病変における病巣部位の診断、炎症の活動性評価にどのように有用であるかについて両者を比較検討した。

当院整形外科で加療中の膝関節炎患者に対し、MRI及びSPECTを行ない得られた画像を検討した。MRIではGd-DTPA静注により炎症滑膜はenhansmentされ、T.強調像で高信号を示した。一方、SPECTでも炎症の強い滑膜にup-takeの増強を認め、両者ともその局在診断に有用であった。同一症例において、MRIとSPECTの所見及び臨床症状を経時的に観察し、治療効果の判定をする上でその有用性を認めた。

551 ****Tc-MDPの骨への吸着機構について